

演習科目	想定される事例の要件（等）
脳血管疾患のある方のケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・再発予防のために自己管理を行わなければならないが、このままでは再発につながるような、日常生活、環境となっている ・多職種連携を進めているが、対応に苦慮している ・ADL に変化をきたしているが、リハビリテーションがすすまない ・今後の生活上で改善を要することを提案しても受け入れてもらえない など
認知症のある方の家族等を支えるケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症のある人で、一人暮らしや老老介護など対応に苦慮している事例 ・認知症の人とともに、家族への多職種協働による支援が必要な事例 ・介護保険サービスだけではなく、地域住民を含めたインフォーマルサポートや多職種、多機関での連携が必要な事例 など
大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・大腿骨頸部骨折後、骨折前の生活機能の状態に戻れず、在宅生活の継続に苦慮した事例 ・大腿骨頸部骨折後、リハビリテーションを行い、歩行が自立し自宅等の骨折前の生活場所に戻ったものの、転倒による再骨折の不安から不活発な生活になってしまった事例 ・大腿骨頸部骨折後、歩行も安定しADL は自立し、骨折前の状態に回復したものの、社会参加や介護給付サービスの終結（卒業）への支援に苦慮した事例 など
心疾患のある方のケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・再発、再入院の予防として、医療的ケアについて、かかりつけ医と連携しなければと感じているが、なかなか連携が取れない ・病状の進行により、日常生活が変わる中、訪問診療、訪問看護など医療系サービスの導入にあたり苦慮している ・疾患の進行の可能性があるが、今までの生活習慣の見直しがなかなかできず、このままでは病状が進行してしまう など
誤嚥性肺炎の予防のケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔機能低下がみられ食事摂取が上手にいかず、在宅生活に支障をきたしている ・誤嚥性肺炎により入退院を繰り返している ・摂食、嚥下などに支障があり、身体能力低下や栄養摂取に支障をきたしているなど
看取り等における看護サービスの活用に関する事例	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅で過ごしたいという利用者の意向と不安のために入院を希望する家族の意向とに違いがある。意向の違いはあるが、訪問看護サービスの利用により調整ができた ・単身生活、老々介護、家族が就労しながら介護している等、介護力が少ない中で介護、看護サービス利用により、在宅での看取りができた ・施設における看取りにおいて、介護職員と看護職員の連携により、職員の負担感や不安が解決できた など
家族への支援の視点や社会資源の活用に向けた関係機関との連携が必要な事例のケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・家族への負担が多くこのままでは虐待が起こる可能性がある ・制度が提供できる範囲を超え、介護給付サービスだけではニーズが満たせない ・難病、障害高齢者、生活困窮状態、ヤングケアラー等他法他制度にわたる支援が必要 など